

グリーンな飛騨パプリカ栽培協議会（岐阜県高山市）

R5補正
R6当初

41

背景・課題

高山市は夏秋パプリカ栽培においては、各種害虫を対象とした薬剤防除にかかる作業負担が大きく、省力化が求められている。天敵の導入により、省力化と化学農薬低減が期待されるが、夏秋作型における活用の知見は少ない。また、プラスチックマルチの撤去に係る労力負担及び廃棄コストが課題となっている。

成果目標

- 化学農薬の使用量低減
- 石油由来資材からの転換
(プラスチックマルチ→生分解性マルチへの転換)

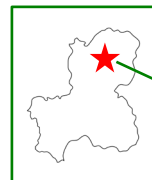
主な取組内容

- 天敵導入を含む総合的な害虫管理

慣行区では害虫であるチャノホコリダニの被害が確認されたのに対して、天敵導入区では同害虫の天敵であるスワルスキーカブリダニの安定した定着により被害が認められなかった。その結果、栽培期間中の化学合成殺虫剤1～2剤の削減効果を確認。

- 生分解性マルチの利用

慣行マルチと比べてコストが増加するものの、概ね慣行マルチと同様に利用可能であり、撤去時の労力負担が削減。



高山市

構 成 員

飛騨パプリカ班、飛騨蔬菜出荷組合特産部会、岐阜県農政部農業経営課、岐阜県中山間農業研究所、岐阜県飛騨農林事務所

品 目

パプリカ（施設栽培）



天敵や害虫の見分け方に関する研修会を開催



害虫及び天敵のモニタリング

チャノホコリダニの被害株率
(調査日：R5.8.31、30株調査)

	天敵導入区	慣行区
Aほ場	0.0%	10.0%
Bほ場	0.0%	6.7%

天敵導入の効果



生分解性マルチの利用

普及に向けた取組

実証は令和7年度までを予定。複数種類の天敵を導入した中で、安定的に定着しなかった天敵もあることから、天敵以外の粘着板や環境負荷の少ない薬剤の活用、適期防除等を組み合わせる方法も検討し、飛騨版パプリカIPM防除マニュアルを作成し、IPM体系の普及を行う。なお、総合防除全国キャラバン in 東海（令和6年9月26日開催）においてもこれまでの取組を紹介。

グリーンな飛騨パプリカ栽培協議会 事務局
(岐阜県飛騨農林事務所農業普及課)

問い合わせ先

TEL：0577-33-1111(内線265)、e-mail：c24809@pref.gifu.lg.jp